

看護科 (3年次)

2024年度 シラバス目次

科目名	項
医療経済	2
医療安全と法律	3
公衆衛生学	5
社会福祉	6
災害看護学	8
国際看護学	10
看護管理	12
看護シミュレーション統合演習	14
地域・在宅看護論実習Ⅱ 地域での療養生活を支える	16
成人・老年看護学実習Ⅰ 病気と共に生きる人を支える慢性期・回復期	18
成人・老年看護学実習Ⅱ 病気と共に生きる人を支える急性期	20
成人・老年看護学実習Ⅲ 病気と共に生きる人を支える終末期	22
小児看護学実習Ⅱ こどもと家族を支える	25
母性看護学実習Ⅱ 命を育む	30
精神看護学実習 その人らしさを支える	33
統合実践実習	35

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	医療経済
担当者	若山 雅博
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	経済学を知らずに医療ができるか!?

授業概要と目的

医療経済学の基礎について理解することを目的とする。講義内容は医療サービスと経済学との関連性、医療保険制度/介護保険制度等の経済学的意味合い、医療費、薬剤の経済等の基本的知識を修得する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	経済学の系譜から医療経済学を理解する。	経済と医療の関係について経済学の系譜を理解し、市場の失敗など説明できる。	若山 雅博
2	前期	医療サービスの特性から医療経済学の基礎を理解する。	経済学の視点から医療サービスの特性、情報の非対称性、モラル・ハザード等を説明できる。	
3	前期	医療保険制度、介護保険制度、医薬品の諸制度を理解する。	医療介護保険制度の基礎知識と共に、医療費の一定割合を占める医薬品の諸制度について説明できる。	
4	前期	国民医療費とその内容について理解する。	医療費抑制政策、医療費増加の要因など国民医療費について、先進各国との比較を交えながら説明できる。	
5	前期	医療技術の効果と費用について理解する。	先進性の高い高額医薬品含めた医療技術の費用対効果や予防医療と医療費抑制との関連性について説明できる。	
6	前期	医療人材(特に医師)の不足と人材の効率化について理解する。	医師不足及び医師配置の効率性について説明できる。	
7	前期	福祉と医療の関係について理解するとともに将来の医療システム構築について理解する。	貧困と医療費の問題、及び将来に向けて持続可能な医療システム構築について説明できる。	
8	前期	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験(100%)に基づき評価			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	医療安全と法律
担当者	藪本 恭明、中村 ふじ枝、高橋千恵子
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院

授業概要と目的

医療技術の高度化と医療現場は専門分化から、看護師に求められる役割は拡大し複雑化している。医療安全の目的とその意義を理解するとともに、臨床現場における取り組みの実際や事例からリスク管理の必要性を理解し、安全な医療を実践するための方法を理解する。担当教員は、看護師、医師・弁護士としての知識と経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「医療安全の意義と目的」 医療安全を学ぶ意義と基本を理解する	・医療安全の意義と目的を述べる ・医療安全の対象を説明できる	中村 ふじ枝
2	通年	「医療安全の組織体制」 医療安全の成り立ちと組織体制を理解する	・医療機関における医療安全体制を述べる ・医療事故と医療過誤の違いを説明できる	
3	通年	「エラーからの学び」 インシデント報告の目的と活用について理解する	・インシデント、アクシデントの違いを説明できる ・リスク管理の必要性を説明できる	
4	通年	「ヒューマンエラーとエラープルーフ」 人間の特性を理解し、安全対策のあり方を理解する	・人間の特性を知り、安全対策のあり方を述べる	
5	通年	「個人・チーム・組織としての医療安全」 事例検討・KYTを体験する	・KYTの意義・目的を説明できる ・事故防止の考え方に触れ意見を述べる	
6	通年	「医療安全とコミュニケーション」 チーム医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する	・ノンテクニカルスキルを体験する	
7	通年	「組織・地域における医療安全」 最近の事例から学びを考える	医療安全を脅かすメカニズムについて考えを述べる	
8	通年	医療安全体制について理解する	あるべき医療安全体制について説明できる	藪本 恭明
9	通年	看護師の法的責任について理解する	看護師の法的責任について説明できる	
10	通年	医療事故の予防法学を理解する	医療事故の原因を分析し予防策を提案できる	

11	通年	事例検討～医療安全を脅かすメカニズム～1)	(1)輸液ポンプ使用中の事故事例 ①事故原因を説明できる ②分析により検証する ③解決課題を考える	高橋 千恵子
12	通年			
13	通年	事例検討～医療安全を脅かすメカニズム～2) 臨床工学科の学生と協同学習で学ぶ	(2)人工呼吸器使用中の事故事例 ①事故原因を説明できる ②なぜなぜ分析により検証する ③解決課題を考える	
14	通年			
15	通年	1)科目試験 2)まとめ		
成績評価方法		筆記試験:中村(45点)、籾本(25点)、高橋(30点)		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	公衆衛生学
担当者	近藤 繁生
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院

授業概要と目的

公衆衛生の概念と歴史を学び、保健活動を理解するとともに、健康社会実現に向け、今後の保健・医療・福祉の健康にかかわる現代の課題に目を向け、より良い未来を切り開いていくための基礎的知識を学ぶとともに看護師国家試験過去問で傾向と対策を考える。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	健康と予防の概念について学ぶ。	保健活動における予防の概念を理解する。	近藤 繁生
2	後期	自然環境要因と健康について学ぶ。	環境要因が健康に及ぼす影響を理解する。	
3	後期	人口を含む各種保健統計を学ぶ。	保健統計の現状の数値を理解する。	
4	後期	わが国の主要感染症について学ぶ。	感染症対策と予防について理解する。	
5	後期	母子保健・学校保健について学ぶ。	乳児から児童までの保健対策を理解する。	
6	後期	地域保健・成人保健について学ぶ。	医療保険制度とともに保健活動を理解する。	
7	後期	高齢者保健・精神保健を学ぶ。	介護保険制度とともに保健活動を理解する。	
8	後期	1) 科目試験 (45分)		
成績評価方法	筆記試験			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	社会福祉
担当者	葛谷 桂司
単位数(時間数)	1単位 15時間
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院

授業概要と目的

社会福祉および社会保障の意義・制度・役割を学び、保健・医療・福祉の連携について理解する。健康や障がいの状態に応じた生活支援に役立つ社会資源の種類と内容について学ぶ。担当教員は、社会福祉士の知識と経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	社会保障制度の概念を理解する。	社会保障制度の種類を挙げることができる。 社会福祉法の種類、支援の種類を挙げることができる。福祉六法の内容を説明できる。	葛谷 桂司
2	後期	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を理解する。	動向のうち①少子高齢化の現状と将来の問題を説明できる。②人口問題を説明できる。③社保制度・福祉制度に与える影響を説明できる。 医療福祉分野の動向とサービス提供について説明ができる。	
3	後期	保障の種類と目的① 医療保険制度の内容を理解する。	医療保険の目的、種類、加入の要件を説明できる。 特定保健指導の内容を説明できる。 高齢者医療の目的、内容を説明できる。	
4	後期	保障の種類と目的② 介護保険の内容を理解する。高齢者福祉の目的、内容を理解する。	①介護保険法の目的を説明できる。 ②保険サービス利用の対象者、認定の流れ、利用者負担を説明できる。 ③サービス提供の種類を挙げることができる。 ④サービス提供の種類の内容を説明できる。 ⑤高齢者福祉の目的を説明できる。	
5	後期	保障の種類と目的③ 年金制度の内容を理解する。	①年金制度の目的を説明できる。 ②年金の種類を挙げることができる ③年金の加入要件を説明できる。	
		雇用保険、労働者災害補償保険の内容を理解する。	①雇用保険制度の目的を説明できる。 ②雇用保険の加入要件を説明できる。 ③雇用保険給付の要件、種類を挙げることができる。 ④労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤労働者災害の種類を挙げることができる。 ⑥社会復帰促進事業の目的、内容を挙げることができる	

6	後期	保障の種類と目的④ 生活保護制度、生活困窮者支援制度を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ①生活保護法の目的を説明できる。 ②生活保護の原理、原則を挙げることができる。 ③扶助の種類を挙げ、内容を説明できる。 ④生活困窮者支援法の目的を説明できる。 ⑤生活困窮者支援の内容を挙げることができる。 ⑥災害救助法の目的を説明できる。 ⑦日本赤十字社の役割を説明できる。 	葛谷桂司
7	後期	社会福祉の分野とサービスの内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉 <ul style="list-style-type: none"> ①児童憲章の内容を説明できる。 ②児童福祉法の目的、内容を説明できる。 ③障害児の支援について説明できる。 ④子供の貧困について考察ができる。 ⑤ひとり親家庭の支援について説明できる。 (2) 障害者福祉 <ul style="list-style-type: none"> ①障害者福祉の目的を説明できる。 ②障害者手帳の取得の流れを説明できる。 ③障害者総合支援法の目的、サービス提供の流れ、実施機関、提供サービスの内容を説明できる。 	
8	後期	1) 科目試験(45分)		
成績評価方法		筆記試験		
準備学習など		テキストを読んで準備してください。講義当日に配布する資料はテキストの内容を補い、国家試験対策の参考として活用してください。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	災害看護学
担当者	日高 友里
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

授業概要と目的

我が国は近年、自然災害が多発し、人々は命や健康を損ない多くの被害を受けた。このような状況下で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職は人々の健康に関わる専門職者として大きな役割を担っている。災害時の看護活動を円滑に行うために必要となる災害医療の基礎知識を理解するとともに、災害サイクルに応じた活動現場に応じた看護活動を理解する。また、被災された方の特性に応じた災害看護の方法、及び被災者の心のケアの必要性を理解する。担当教員は、看護師の臨床経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・災害の定義・種類を理解する ・災害時の健康被害を理解する	・災害の定義・種類を説明できる ・災害における健康被害と対応方法を説明できる	日高 友里
2	前期	・災害のサイクルとその特徴を理解する ・災害看護の役割を理解する	・災害サイクルを説明できる ・災害看護の特徴と看護活動の内容を説明できる	
3	前期	・CSCATTTを理解する	・災害における体系的アプローチの方法を説明できる	
4	前期	・トリアージの方法を身につける	・トリアージの方法を説明できる ・START法トリアージを実践できる ・トリアージタグを記載できる	
5	前期	・災害急性期・亜急性期における看護を理解する	・災害急性期の看護を説明できる ・災害亜急性期の看護を説明できる	
6	前期	・災害慢性期・復興期における看護を理解する	・災害慢性期の看護を説明できる ・災害復興期の看護を説明できる	
7	前期	・災害静穏期における看護を理解する	・災害静穏期の看護を説明できる	
8	前期	・災害時のこどもに対する看護を理解する	・災害時のこどもの特性を説明できる ・こどもに対する災害看護を説明できる	
9	前期	・災害時の妊婦に対する看護を理解する	・災害時の妊婦の特性を説明できる ・妊婦に対する災害看護を説明できる	
10	前期	・災害時の高齢者に対する看護を理解する	・災害時の高齢者の身体的・精神的特性を説明できる ・高齢者に対する災害看護を説明できる	

11	前期	・災害時の障がい者・慢性疾患患者に対する看護を理解する	・災害時の障がい者・慢性疾患患者の特性を説明できる ・障がい者・慢性疾患患者の災害看護を説明できる	日高友里
12	前期	・災害時の外国人に対する災害を理解する	・外国人に対する災害看護を説明できる	
13	前期	・被災者のこころのケアの方法を理解する ・遺族の心のケアの方法を理解する	・被災者のこころのケアを説明できる ・遺族の心のケアを説明できる	
14	前期	・被災救護者のこころのケアの方法を理解する ・救護者のストレスとこころのケアの方法を理解する	・被災救護者のこころのケアを説明できる ・救護者のストレスとこころのケアを説明できる	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法				
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	国際看護学
担当者	寺西美佐絵/スズキ有里/小笠原広実
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・見学
教科書・参考書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院

授業概要と目的

国際協力やグローバルヘルスのしくみと文化を考慮した国際看護の基礎知識を学ぶ。また、開発協力や国際救援における具体的な看護活動を通して、諸外国との協力の目的と意義を学ぶ。保健医療の側面として、開発途上国への国際的活動と看護について学ぶ。担当教員は、看護師の知識や経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	国際看護学とは何かについて学ぶ	1.世界の健康問題の現状について説明できる。 2.三大感染症について説明できる。	寺西 美佐絵
2	前期	国際看護学とは何かについて学ぶ	1.国際看護学の定義を述べるができる。 2.国際看護学の対象について説明できる。	
3	前期	国際協力について学ぶ。	1.なぜ国際協力が必要か説明でs切る。 2.保健医療にかかわる国際機関を述べられる。 3.国際保険における日本の役割について述べられる。	
4	前期	グローバルヘルスについて学ぶ。	1.グローバルヘルスについて説明できる。 2.日本の看護制度及び諸外国の看護制度について述べられる。 3.SDGsについて説明できる。 4.自分ができるSDGsを述べるができる。	
5	前期	「国際社会における看護の対象」 在外日本人の抱える健康問題を知る	「在外日本人の生活と健康問題」 ①海外で暮らすときに、どのような健康上の不安が起こるかを予想して述べるができる ②海外に赴任になる人に、どのような情報提供や指導が必要になるかを述べることができる	小笠原 広実
6	前期	「国際社会における看護の対象」 在留外国人の抱える健康問題を知る	「在留外国人の生活と健康問題」 ①外国人が言葉の通じない日本で生活するときに、どのような健康上の困難が起こるかを予想して述べることができる ②外国人を看護するときに、何に配慮したいかを考え、述べることができる。	
7	前期	「国際社会における看護の対象」 日本で働く外国人看護職の状況を知る	「日本で働く外国人看護職の現状と課題」 ①日本で働く看護職の現状、制度などについて述べることができる ②外国人が日本で看護師・介護士として働くときの困難について考え、述べることができる	

8	前期	「多様な文化と看護」 文化を考慮する看護とはどういうことかを理解する	「異文化を受け入れ看護するとは」 ①異文化について理解するときの視点について述べるができる ②先入観や決めつけたりしやすい傾向に気づき、その振り返りを表現することができる	小笠原 広実
9	前期	「多様な文化と看護」 在留外国人の抱える保健医療課題を理解し、看護・支援の方法を知る	「在留外国人の保健医療課題と看護」 ①災害時に外国人が必要とする支援について知り、述べるができる ②外国人が日本で抱える健康問題を知り、医療を受けるときの問題と課題を述べるができる	
10	前期	国際協力の基礎知識について学ぶ	① 国際協力のしくみについて説明できる ② ODA, NGOについて説明できる	スズキ 有里
11	前期	「国際協力と看護」 世界の現状と、開発協力における国際看護について学ぶ	①開発途上国における現状について考えを述べるができる ②開発協力における国際看護の展開について、考えを述べるができる	
12	前期	JICA見学	①JICAの意義、活動について述べるができる	
13	前期		②JICAの抱える問題と目指す展開について述べるができる	
14	前期	国際救護と看護について学ぶ	①世界における国内外の避難民の現状について述べるができる ②近年の特徴的な国際救護活動について述べるができる ③国際救護における看護の特徴について述べるができる	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験		寺西 美佐絵
成績評価方法		筆記試験・課題で評価する		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	看護管理
担当者	近藤 俊世 / 佐藤 直美
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護管理 医学書院

授業概要と目的

看護マネジメントを看護の仕組み捉え、その概念と目的、構成を理解する。また看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップなどのマネジメントに必要な知識と技術を学び、看護マネジメントできる基礎的能力を養う。担当教員は、看護師の臨床経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	看護管理学のとはを理解する マネジメントとはを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理学の定義理解できる 看護管理学の概念構成と基本的要素を理解できる マネジメントとは何か理解できる 	佐藤直美
2	通年	看護マネジメントの概要を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 看護マネジメントの考え方について理解できる 看護マネジメントが行われる場について理解できる 	
3	通年	看護ケアのマネジメントとを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 看護ケアのマネジメントと看護職の機能について理解できる 患者の権利の尊重とはを理解できる 	
4	通年	看護ケアのマネジメントとを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 患者の権利の尊重とはを理解できる 安全管理について理解できる 	
5	通年	看護ケアのマネジメントとを理解する	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療について理解できる 看護業務のマネジメントについて理解できる 	
6	通年	看護職のセルフケアマネジメントについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> 看護師のキャリア形成について理解できる 社会の一員としての看護専門職について理解できる 	
7	通年	看護職のセルフケアマネジメントについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> タイムマネージメントについて理解できる 	
8	通年	マネジメントに必要な基礎的知識を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 組織のマネジメントを理解する 組織文化を理解する 	
9	通年	リーダーシップ・メンバーシップを理解する	<ul style="list-style-type: none"> メンバーシップ・リーダーシップの定義をのべることができる リーダーシップを理論に基づいて理解することができる 	
10	通年	看護を取り巻く諸制度を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 看護に関連した諸制度を理解することができる 	
11	通年	看護を取り巻く諸制度を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 医療制度について理解できる 看護制度と政策について理解できる 	

12	通年	組織目的達成のマネジメントを理解する 看護サービス提供の仕組みづくりを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・組織目的達成のマネジメントを説明できる ・看護サービス提供の仕組みづくりを説明できる 	近藤 峻世
13	通年	人材・物・ケア環境・財的資源のマネジメントを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・人材マネジメントについて理解できる ・ケアを提供する環境マネジメントについて理解できる ・物品(もの)マネジメントについて理解できる ・財的資源マネジメントについて理解できる 	
14	通年	情報のマネジメント・組織のリスクマネジメント・医療サービスの評価を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の管理、個人情報の保護について述べることができる ・法的リスクマネジメントについて述べるができる ・医療機能の評価について述べるができる 	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験	まとめ テスト	佐藤 直美
成績評価方法		筆記試験、課題、OSCEの総合評価		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 3学年
科目名	看護シミュレーション統合演習
担当者	高橋 千恵子
単位数(時間数)	1単位 30時間
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護管理 医学書院 多重課題クリアノート 学研

授業概要と目的

統合実習に向けて既習した知識と技術を活用し、状況判断やタイムマネジメントなどの具体的な体験から、より実践的な看護マネジメントスキルを習得する。看護業務において複数への対象者への対応が求められる。演習を通し限られた時間や対象の安全を配慮し優先順位を判断し、行動できる能力を養う。また、基礎看護教育で到達すべき看護技術のうち、実習で未経験となっている技術の習得を目指す。担当教員は、看護師の臨床経験を活かして授業を行う。

(コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	複数患者の援助計画立案(1) ・複数患者の特徴を理解する。	1) 複数患者の病態～治療を述べる。 2) 患者情報から複数患者の看護アセスメントをする。	高橋 千恵子
2	後期			
3	後期	複数患者の援助計画立案(2) ・複数患者の援助計画が立案できる	3) 複数患者のノードをふまえた一日の看護実践を、優先順位を考慮し計画する ①個別の援助計画 ②複数患者の1日の実践計画	
4	後期			
5	後期	複数患者の援助計画立案(3) ・複数受け持ち時の看護チームへの連携をする	4) 立案した実践計画をチーム内で共有をする 5) 実践計画の評価・修正をする	
6	後期	多重課題シミュレーション準備 ・OSCE場面の援助練習をする	・OSCEのための援助準備をする	
7	後期	多重課題シミュレーションの実施 ・OSCE場面の実践と振り返りからマネジメント課題を学ぶ	・おこりやすい看護実践場面をシミュレーションする ①予期しない患者の反応 ②時間の切迫 ③突発的な辞退 ・デブリーフィングで振り返る ①I-SBARでの報告 ②看護チームでの解決	
8	後期			
9	後期	多重課題シミュレーション ・看護ケアマネジメントの課題を明確にする	・看護ケアのマネジメントの自己課題と解決方法をリフレクションから明らかにする	

10	後期	看護基礎教育で 到達すべき看護技術(1)	吸引、静脈血採血 ・技術練習する	高橋 千恵子
11	後期		吸引、静脈血採血 ・技術実施できる	
12	後期	看護基礎教育で 到達すべき看護技術(2)	注射、点滴、輸液ポンプの操作 ・技術練習する	
13	後期		注射、点滴、輸液ポンプの操作 ・技術実施できる	
14	後期	看護基礎教育で 到達すべき看護技術(3)	導尿 ・技術練習する ・技術実施できる	
15	後期		到達度確認 技術リフレクション	
成績評価方法		1～9回(事例課題+シミュレーション課題:70点)10～15回(技術+リフレクション30点)		
準備学習など		各実習で経験した看護技術のチェックをしておくこと		
留意事項				

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ 地域での療養生活を支える
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術 メディカ出版

科目のねらい
地域で療養者とその家族が安全に、安心して暮らしていくために、多職種とパートナーシップに基づいた看護を展開していくための実践能力を養う。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：地域で療養する人とその家族の暮らしと願いを理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 地域で療養する人の健康状態を説明する。	(1) 身体機能：構造と機能の変化 (2) 精神機能：意識、記憶、思考、感情 (3) 社会との関わり：人との関わり、役割の内容と遂行の状況 (4) 自覚症状と他覚症状
2) 地域で療養する人が暮らす環境について理解する。	(1) 療養者を取り巻く環境 ①物理的環境 ・居住地域 ・自然環境：日当たりや風通し、騒音、大気について ・生活環境：間取り、生活物品の配置、段差、照明、住宅改修など社会資源活用の状況 ②人的環境：家族、友人など ③社会環境：居住地域の組織、慣習、公共交通機関など
3) 地域で療養する人の暮らしを理解する	(1) 療養者の暮らし ①ADL、IADLの状況 ②意思決定の状況 ③経済状況 ④生きがい ⑤1日の過ごし方 ⑥生活習慣 ⑦受診状況 ・受診の頻度 ・医療機関と自宅との距離 ・受診方法 ⑧医学的管理の状況 ・服薬管理の方法と服薬状況 ・医療機器の取り扱い ・食事、排泄などのセルフケア、セルフマネジメントの状況
4) 地域で療養する人の家族の暮らしについて理解する。	(1) 家族の暮らし ①家族構成 ②同居・別居の状況 ③別居の場合は家族の居住地 ④家族の健康様態 ⑤家族の暮らし ⑥家族の介護の状況：内容、頻度
5) 療養者や家族の願いを知る。	(1) 療養者の暮らしや健康に対する願い (2) 療養者の訪問看護に対する思いや考え (3) 家族の療養者の健康や暮らしに対する思いや願い (4) 家族の訪問看護に対する思いや考え

<p>科目目標 2：地域で安全に、安心して暮らすための看護を理解する。</p>	
<p>1) 療養者とその家族の健康状態を把握し、訪問看護の必要性を理解する。</p> <p>2) 訪問看護サービス利用の経過について説明する。</p> <p>3) 訪問看護ケアを実践する。</p>	<p>(1) 療養者の健康状態のアセスメント</p> <p>(2) 療養者の生活状況のアセスメント</p> <p>(3) 介護者の健康・生活状況と介護状況のアセスメント</p> <p>(1) 受け持ち療養者の訪問看護サービス利用の流れ</p> <p>①訪問看護サービスの開始について</p> <p>・開始時期 ・依頼者 ・連絡方法 ・依頼内容</p> <p>②訪問看護サービス利用開始の手続き</p> <p>・契約の内容 ・契約者</p> <p>③初回訪問時の状況</p> <p>④サービス利用開始からの経過</p> <p>・療養者の健康状態 ・保険の種類</p> <p>・訪問看護指示書の内容 ・訪問看護計画の内容</p> <p>・サービス内容 ・他職種との情報共有の時期</p> <p>(1) 訪問に関わるマナー</p> <p>①時間を守る ②守秘義務</p> <p>③一般的なマナー（身だしなみ、挨拶、言葉遣い）</p> <p>(2) 計画に沿った援助の実施</p> <p>①安全・安楽な援助 ②日常生活援助 ③医療処置</p> <p>④服薬管理 ⑤保健指導 ⑥コミュニケーション</p> <p>⑦リハビリテーション ⑧社会資源活用の提案や評価</p> <p>(3) 決められた時間の中でのケアの組み立てや優先度の考え方</p> <p>(4) 自己決定の促し</p> <p>(5) 経済性を考えた物品や援助の工夫</p> <p>(6) 援助方法の工夫</p>
<p>科目目標 3：地域で安全に、安心して暮らしていくための多職種の協働の在り方を理解する。</p>	
<p>1) 受け持ち療養者の暮らしを支えている社会資源について説明できる。</p> <p>2) 療養者が利用しているサービスに関わる専門職と療養者、その家族の協働の在り方を理解する。</p> <p>3) 訪問看護の役割について説明する。</p>	<p>(1) 受け持ち療養者の暮らしを支える自助・互助・共助・公助</p> <p>①自助：療養者自身のセルフケアやセルフマネジメントの状況</p> <p>サービスの導入</p> <p>②互助：家族のサポート、近隣の住民からのサポート、ボランティア、民生委員など</p> <p>③共助：社会保障に基づくサービス（医療保険、年金保険、労働保険、雇用保険、介護保険）</p> <p>④公助：児童福祉、母子父子福祉、寡婦福祉、老人福祉、障害者総合支援法、身体障害者福祉、知的障害者福祉 精神障害者福祉、生活困窮者福祉、生活保護、更生保護</p> <p>⑤権利擁護：成年後見、虐待防止</p> <p>(1) パートナーシップ</p> <p>①療養者と家族 ②療養者と看護師 ③家族と看護師</p> <p>④看護師と専門職（医師、薬剤師、歯科医師、保健師、役所職員、ケアマネージャー、介護福祉士、精神保健福祉士 作業療法士など）</p> <p>(1) 訪問看護に求められているもの</p> <p>(2) 訪問看護の効果</p>
<p>評価方法</p>	<p>実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。</p>
<p>学習準備など</p>	<p>事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと</p>

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ 病気と共に生きる人を支える慢性期・回復期
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学①～④ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

科目のねらい
慢性病とともに生きる人・生活機能障害のある人の発達段階に応じたセルフケア能力や健康問題に適応する能力を支援するための看護実践能力を養う。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：慢性病とともに生きる・生活機能障害のある対象の全体像を把握し、疾病と共に生きる必要性を理解する	
具体的目標	実習内容
1) 対象の身体的・精神的特徴を把握する。	(1) 身体的特徴 ・形態的变化 ・機能的变化
2) 対象の社会的特徴を把握する。	(2) 精神的特徴 ・人間関係 ・精神的自律性と成長
3) 対象の健康障害を述べることができる。	(1) 社会的特徴 ・家族構成, 家族関係 ・キーパーソンの有無 ・家庭内での患者の役割 ・経済状況 ・社会的役割の変化
4) セルフケア能力についてアセスメントできる。	(1) 健康障害の内容と程度の理解 ① 疾病・病態生理、症状、検査データ、治療内容、処置、既往歴 ② 機能障害の有無 ③ ADL・IADLの状況 ④ リハビリテーションの状況
5) 対象及び家族の健康障害に対する受け止め方を述べるができる。	(1) 対象のセルフマネジメント(自己管理)の理解 ① 病気と治療のセルフケアマネジメント セルフモニタリング QOLの維持における症状マネジメント セルフマネジメントと知識 ② 生活と役割のマネジメント ③ 自己の揺らぎへの対応 (1) 障がい受容に関して精神的サポート ① 疾病、健康障害に対する思い ② 闘病意欲 ③ 理解力 ④ リハビリテーションへの思い (2) 受容過程の理解 ① セルフケア理論 ② 自己効力理論 ③ 痛みの軌跡 ④ 障害受容過程 ⑤ 危機の段階

科目目標2：慢性病とともに生きる・生活機能障害のある対象に、生活の中で機能を回復させる支援を実践する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の問題解決に必要な看護過程の一連の展開ができる。 2) 対象のセルフケア能力に応じた日常生活援助ができる。	(1) 看護計画の立案・実施・評価・修正 (2) セルフケアに応じた日常生活援助 ① 食事：食事介助 治療食の理解 体位の工夫 ② 排泄：排泄介助 排泄コントロール 排泄環境の整備 ③ 活動：良肢位の保持 車椅子移乗、歩行介助 ④ 睡眠：睡眠と休息環境の整備 ⑤ 清潔：清拭 陰部洗浄 足浴 手浴 シャワー浴介助 入浴介助 洗髪・整髪 口腔ケア 洗面介助
科目目標3：慢性病とともに生きる人・生活機能障害のある対象に、生活の再構築に向けた本人、家族への支援を実践する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象に必要な生活の再構築に向けた学習支援ができる。 2) 対象の自己概念への配慮ができる。	(1) 教育活動の実施 ① 発達段階の特徴の把握 ② 生活習慣や家庭での健康管理の状況把握 ③ 就業状況の把握 ④ 患者および家族の健康障害に対する認識の把握 ⑤ キーパーソンおよび家族の支援状況の把握 ⑥ 家屋状況の把握 ⑦ 対象および家族に必要な教育指導の実施 (1) 対象の自己概念について ① 経験の活用 ② 学習への準備状況 ③ 学習の方向・目的 ④ 学習の動機づけ
科目目標4：慢性病とともに生きる人・生活機能障害のある対象を支えるための、保健医療福祉チームの連携について理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象に必要な保健医療福祉チームの役割について述べる。	(1) 多職種との連携の理解 ① 対象に必要な関連職種の把握 ② 連携の必要性 ③ 看護師の役割 ④ 院内におけるシステム ⑤ 社会資源の活用
評価方法	評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ 病気とともに生きる人を支える急性期
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学①～⑭ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド,照林社, 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

科目のねらい
<p>急性期看護における基本的な考え方を学ぶ。クリティカルケアが必要な看護の対象に応じた、観察技術・看護技術の習得を目指す。周術期にある対象を理解し、その健康回復を支援するための看護実践能力を養う。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。</p>

科目目標と学習内容	
科目目標1：周術期にある対象の全体像を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 周術期の対象の健康障害を理解する。	(1) 身体的側面 (2) 心理・社会的側面 (3) 発達段階による変化 (4) 健康障害の原因・誘因 (5) 既往歴の有無・既往疾患に対する治療および治癒の有無 (6) 生活習慣・生活パターン
2) 手術による身体侵襲からの生体反応の変化と身体的苦痛を理解する。	(1) 治療方針・治療内容 (2) 手術方法・部位 (3) 麻酔の種類とその影響 (4) 手術が全身に及ぼす影響 (5) 術後に起こる身体的苦痛の程度と変化 (6) 術後の検査データとその変化 (7) 手術により喪失する臓器の影響 (8) 既往歴症状の手術侵襲による変化 (9) 創傷の治癒過程
3) 周術期の対象の心理的苦痛を理解する。	(1) 医師・看護師からの説明内容 (2) 説明後の受け止め方と思い ・手術への不安と期待 ・術後の回復状態とその変化への受け入れ方と思い (3) 術後の社会復帰に向けた不安と期待
4) 周術期の対象のリスクアセスメントをすることができる。	(1) 術前の身体的アセスメント 術前の心理的アセスメント ・認知機能 ・感覚器の機能 (2) 手術経過の術中合併症アセスメント (3) 術後の合併症アセスメント

科目目標 2：周術期の対象が安全・安楽な経過をたどることができるよう、看護を実施する。

具体的目標	実習内容
<p>1) 周術期の合併症予防と異常の早期発見のための援助をする。</p> <p>2) 術後に生じる苦痛を緩和することができる。</p> <p>3) 対象の回復に合わせた日常生活援助を実施する。</p> <p>4) 術後の身体機能の変化に応じた適応のための支援をする。</p>	<p>(1) 術前準備</p> <p>(2) 術中の全身管理</p> <p>①手術内容 (術式・麻酔・手術時間・体位)</p> <p>②呼吸管理</p> <p>③循環管理 体温管理</p> <p>④水分出納</p> <p>⑤輸液管理</p> <p>⑥ドレーン管理</p> <p>⑦感染管理</p> <p>(3) 術後合併症予防の援助</p> <p>① 無気肺</p> <p>② 術後出血</p> <p>③ 深部静脈血栓症</p> <p>④ イレウス</p> <p>⑤ 創部感染</p> <p>⑥ 術後せん妄 など</p> <p>(4) 術後の検査と結果</p> <p>(1) 疼痛コントロール</p> <p>(2) 身体侵襲に行つて生じた苦痛症状への緩和ケア</p> <p>(3) 既往歴の症状コントロール</p> <p>(4) 治療計画</p> <p>(1) 回復過程に合わせた環境整備</p> <p>(2) 回復過程に合わせた日常生活援助</p> <p>①術後回復リハビリテーション</p> <p>②廃用性症候群予防</p> <p>(1) 手術で生じた機能変化に適応するための学習支援</p> <p>(2) 社会生活に適応するための学習支援</p>

科目目標 3：周術期の対象を支えるための保健医療福祉チームの連携について理解する。

具体的目標	実習内容
<p>1) 周術期の対象に必要な保健医療福祉チームの役割について述べる。</p>	<p>(1) 多職種との連携の理解</p> <p>①対象に必要な関連職種の把握</p> <p>②連携の必要性</p> <p>③看護師の役割</p> <p>④院内におけるシステム</p> <p>⑤社会資源の活用</p>

<p>評価方法</p>	<p>評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。</p>
<p>学習準備など</p>	<p>事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと</p>

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ 病気と共に生きる人を支える終末期
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学①～④ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統別看護学講座 緩和ケア 医学書院

科目のねらい
死を迎えつつある人に必要な症状のコントロールや家族のケアについて学習する。アドバンスケアプランの考えを深め、患者・家族が満足した看取りができるための緩和ケアおよび臨死期の看護、悲嘆とそのプロセスに応じた援助、ならびにグリーフケアについての実験を経験を通して学習する。さらに自己の死生観を深める機会とする。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：人生の最期のときにある対象の全体像を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の身体的・精神的特徴を把握する。	(1) 身体的特徴 ・形態的变化 ・機能的変化
2) 対象の社会的特徴を把握する。	(2) 精神的特徴 ・人間関係 ・精神的自律性と成長
3) 対象の健康障害を述べることができる。	(1) 社会的特徴 ・家族構成, 家族関係 ・キーパーソンの有無 ・家庭内での患者の役割 ・経済状況 ・社会的役割の変化
4) セルフケア能力についてアセスメントできる。	(1) 健康障害の内容と程度の理解 ① 疾病・病態生理、症状、検査データ、治療内容、処置、既往歴 ② 機能障害の有無 ③ ADL・IADLの状況 ③ リハビリテーションの状況
5) 対象及び家族の健康障害に対する受け止め方を述べるができる。	(1) 対象のセルフマネジメント(自己管理)の理解 ① 病気と治療のセルフケアマネジメント セルフモニタリング QOLの維持における症状マネジメント セルフマネジメントと知識 ② 生活と役割のマネジメント ③ 自己の揺らぎへの対応
	(1) 障がい受容に関して精神的サポート ① 疾病、健康障害に対する思い ② 闘病意欲 ③ 理解力 ④ リハビリテーションへの思い
	(2) 受容過程の理解 ① セルフケア理論 ② 自己効力理論 ③ 痛みの軌跡 ④ 障害受容過程 ⑤ 危機の段階

科目目標2：人生の最期のときにある対象のアドバンスケアプランを理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 全人的苦痛を緩和することができる。 2) 全人的苦痛が和らぐ日常生活援助ができる。	(1) インフォームドコンセントの内容 (2) 対象のACPの内容 ①事前指示 ②DNAR ③代理意思決定 ④ACPのプロセス (3) 受容過程の理解 ・死にゆく人の心理過程 キューブラー・ロス ・悲嘆のプロセス デーケン (1) 看護職の倫理綱領や生命倫理に基づいた行動 ①患者の尊厳と権利 ・インフォームドコンセントにおける患者・ 家族の選択の自由 セカンドオピニオン 補完代替医療など ・その人らしい意思決定支援 ・患者の尊厳 ・患者の公正性 ・良質な医療を受ける権利 ②終末期医療 ・尊厳死 ・延命治療の差し控えと中止 ・苦痛緩和のための鎮静 ・宗教的支援
科目目標3：人生の最期のときにある対象の苦痛を和らげ、その人の思いに添った看護を実践をする。	
具体的目標	実習内容
1) 全人的苦痛を緩和することができる。 2) 全人的苦痛が和らぐ日常生活援助ができる。 3) 対象の思いに添った援助が実践できる。 4) 対象の経過に応じた家族ケアの実践方法を述べる。 5) 臨死期の援助を述べる。	(1) 痛みへのマネジメント ・使用する薬剤の評価 ・痛みのスケール ・副作用 (2) 呼吸器症状へのマネジメント (3) 消化器症状へのマネジメント (4) 精神症状へのマネジメント (1) 計画立案・実施・評価・修正 (2) 日常生活援助の実践 ・食事 ・排泄 ・睡眠 ・清潔・整容 ・移動・移乗 ・ポジショニング ・不眠 ・環境調整 (1) 対象の思いに添った援助 ・対象の習慣や好み、こだわり ・大切な人との時間の共有 ・願い (1) 終末期～臨死期の家族へのケアにおける看護師の役割 ①セルフケア行動への支援 ②苦悩の理解 ③家族間のコミュニケーションの促進 ④家族間の役割調整の支援 ⑤意思決定の支援 ⑥看取りの支援 ⑦グリーフケア ⑧死後のケア (1) 臨死期の症状の特徴と看護 ・嚥下障害 ・呼吸困難 ・終末期せん妄 ・気道分泌亢進（死前喘鳴） ・バイタルサインの変化 ・輸液 ・苦痛緩和のための鎮静

科目目標4：人生の最期のときにある対象を支えるための、多職種との連携の重要性が理解できる。	
具体的目標	実習内容
1) チームアプローチにおける看護師の役割を述べる。 2) 対象に利用できる社会資源を述べることができる。	(1) 対象に必要な関連職種の把握 (2) 医師との情報交換や治療方針の確認 (3) 患者を取り巻く人々との情報交換 (4) 医療チームの役割 (5) 看護師の役割 (1) 人生の最期のときを過ごす場所の選択 ・自宅 ・病院 ・緩和ケア病棟 ・ホスピス ・老人ホームなどの施設 (2) 社会資源 ・医療保険 ・介護保険

評価方法	評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	小児看護学実習Ⅱ こどもと家族を支える
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学

科目のねらい
健康障害により小児科外来で診療を受けたり、入院して治療を受けるこどもや障がいをもちながら療養生活をするこどもに関わり、こどもと家族が安全で安心した診療や療養を受けることができる看護の役割を学ぶ。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

病院実習	
科目目標1：こどもの健康状態や入院が、こどもと家族に影響を及ぼすことを理解する。	
具体的目標	実習内容
1) こどもの健康障害による症状や反応について説明する。 2) 健康状態がこどもと家族に及ぼす影響を述べる。	(1) こどもの症状や反応 ①病態 ②症状 ③検査、治療 (2) こどもの成長発達 ① 身体的な成長 ② 心理的発達 ③ 社会的発達 (1)健康状態が及ぼす影響 ① こどもへの影響 ・ 疾病や治療による成長・発達への影響 ・ 疾病や治療による心理面(苦痛、思い)への影響 ・ 基本的生活習慣や日常生活への影響 ・ 社会的影響 ② 家族への影響 ・ 家族への身体的影響 ・ 家族の心理面(心配、苦痛)への影響 ・ 家族役割への影響 ・ 同胞への影響 ③ こどもと家族の関係形成
科目目標2：こどもと家族への関わりの場面から看護師の臨床判断の理由や根拠を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) こどもと家族への関わりの場面から看護師の臨床判断の理由や根拠を説明する。	(1) フィジカルアセスメント ① こどもと家族への問診 ② 視診、触診、聴診 ③ バイタルサイン (2) 臨床判断 ① スタンダードプリコーション ② 隔離の必要性 ③ 重症度、病状の変化 ④ 診察順、診察の必要性 ⑤ 医師への情報提供、報告

<p>1) こどもと家族への関わりの場面から看護師の臨床判断の理由や根拠を説明する。</p>	<p>(3) こどもに適した診察・検査・処置の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診察室の環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの健康状態、成長発達に合わせた物品 器材の準備 ② こどもの心理的準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ プレパレーション ・ ディストラクション ③ 家族への説明と協力依頼 <p>(4) 病状や治療の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ① こどもの理解と反応 <ul style="list-style-type: none"> ・ アドボカシー ② 家族の理解や様子 <p>(5) こどもの4つの権利を考えた関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生きる権利 ② 育つ権利 ③ 守られる権利 ④ 参加する権利
<p>科目目標3：こどもの最善の利益を守る看護援助を実施する。</p>	
<p style="text-align: center;">具体的目標</p> <p>1) こどものもつ力や家族の想いを考慮したコミュニケーションをとる。</p> <p>2) こどもの成長・発達を考えた援助を行う。</p>	<p style="text-align: center;">実習内容</p> <p>(1) こどもとのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ① こどもが理解できる説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達に応じた説明内容、方法 ・ プレパレーションの実施 ② こどもの頑張りを認める関わり <ul style="list-style-type: none"> ・ ディストラクション ・ 頑張りを認める声掛け <p>(2) 家族とのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族への説明と協力依頼 ・ 抑制や拘束の必要性の説明と理解 ・ 家族の心配や不安を聴く <p>(1) 外来受診中や入院中の遊びと学習の支援</p>
<p>科目目標4：健康状態に応じて、こどもと家族が安全で安心できる看護援助を実施する。</p>	
<p style="text-align: center;">具体的目標</p> <p>1) こどもの健康状態や成長・発達に応じて、おこりうる事故や危険を考え、安全で安心できる看護援助を実施する。</p>	<p style="text-align: center;">実習内容</p> <p>(1) こどもの安全を守るための診察・入院環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小児科外来の構造 ② 小児病棟の環境 <p>(2) こどもに応じた診察・検査の介助</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 診察・検査時の環境調整 <ul style="list-style-type: none"> ・ 転落転倒防止 ・ 器材や物品の配置 ・ 危険物の除去 ② 感染予防対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンダードプリコーションの実施 ・ 隔離室での診察介助 ③ 安全に診察・検査・処置を受けたり、入院生活が送れるための介助 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最小限で確実な身体の固定 ・ こどもと家族への協力説明 ④ 検査・処置における小児特有の技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤の指示量の準備 ・ 与薬、処置等の抑制・固定法 ・ 点滴留置固定方法 ・ 輸液管理（輸液ポンプ）

1) こどもの健康状態や成長・発達に応じて、おこりうる事故や危険を考え、安全で安心できる看護援助を実施する。	(3)安全で確実な援助の実施 ・成長・発達や健康状態に合わせる (物品の選択, 手順や方法, こどもへと家族への説明と協力) ① バイタルサイン ② 身体計測 ③ 日常生活援助の実施 (4)こどもと家族へのセルフケア支援 ① 育児支援 ② 健康教育
科目目標5：健康障害や疾病予防に向けたこどもと家族に対する看護の役割と特徴を理解する	
具体的目標	実習内容
1) 健康障害や疾病予防に向けたこどもと家族に対する看護の役割と特徴を述べる。	(1)外来受診後、退院後に継続した支援が受けられるための多職種連携 (2) こどもの成長・発達が育まれるための地域社会連携 (3) こどもと家族の苦痛緩和と安全・安楽の保障
科目目標6：看護学生として、こどもの尊厳と権利を尊重した行動をとる。	
具体的目標	実習内容
1) 倫理原則をふまえた実習態度をとる。	(1)こどもと家族への態度 ① 誠実性 ・こどもにうそをつかない ・こどもとの約束を守る ② 公平・公正 ・こどもと家族への説明と了解 (2)看護学生としての姿勢 ・学習準備とリフレクション ・身だしなみ ・報告・連絡・相談 ・見学態度 ・自己管理
障がい児施設実習	
科目目標1：障がいや健康障害が、こどもや家族へ及ぼす影響を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 障がいをもつこどもの成長・発達の特徴を述べる。	(1) こどもの障害の種類と程度 (2) こどもの身体的特徴や機能的発達状況 ① 形態的特徴 ② 機能的発達 ③ 生理的機能 ④ 精神的発達 ⑤ 社会的発達 (3)障がいや発達に応じた機器や補助具の使用 ・人工呼吸器の管理 ・車いすの特徴 ・ポジショニングとクッションの配置 ・栄養の方法
2) 障がいがかこどもと家族に及ぼす影響を述べる。	(1) こどもの日常生活 (2) 家族のこどもの世話、医療的ケアによる生活 (3) 家族役割、家族の協力 (4) こどもと家族の願い (5) 社会資源の活用 ・デイケアの利用目的

科目目標2：障がいをもつ子どもと家族への看護師の関わりから、子どもが安全で快適に生活できるように留意点とその理由を理解する。

具体的目標	実習内容
1) 障がいをもつ子どもが安全でその子らしく快適な生活ができる支援を述べる。	(1) 施設の構造・設備・環境 ① 施設内の構造と機能 ② 災害時の対策 (2) こどもの成長・発達に合わせた環境 ① 身体的特徴に応じた環境 ② 安心感を与える環境 ③ 成長発達を刺激する環境 ④ 教育環境 (3) 安全管理 ① 安全管理 ・転倒転落 ・窒息 ・自宅から持ち込む物品の確認 ・その他の事故 ② 感染予防 ・感染症対策 (4) こどもの体調に合わせた生活 ① 体調の変化の観察と気づき ② 自宅での様子の確認 ③ 送迎時の子どもと家族の様子 ④ 家族からの情報

科目目標3：こどもの最善の利益を守る看護援助を実施する。

具体的目標	実習内容
1) こどもの障がいに合わせたコミュニケーションを図る。	(1) 成長・発達や身体的特徴に応じたコミュニケーション ・言語発達 ・非言語コミュニケーション (2) こども自身の訴え ・こども自身の表現の特徴 ・こどもの反応の観察とその意味 ・タッチングや抱っこ

科目目標4：障がいをもつこどもの特性に合わせた日常生活援助を実施する。

具体的目標	実習内容
1) 障がいをもつこどもの日常生活助を実施する。	(1) こどもの障害や成長発達に応じた日常生活の理解 ① 食事の援助 ② 排泄の援助 ③ 清潔の援助 ④ 移動や姿勢保持の援助 ⑤ デイでの生活環境 (2) 計画的な学習やイベントへの参加 ① 遊び ② レクリエーション

科目目標 5 : 障がいをもつ子どもと家族に関わる看護師の役割と多職種連携、社会資源の活用を理解する。

具体的目標	実習内容
1) 障がいをもつ子どもに対する看護師の役割と他職種連携の必要性を述べる。 2) 障がいをもつ子どもとその家族への社会資源の必要性を述べる。	(1) 多職種連携の実際 ① コメディカル ・ PT、OT、ST ・ 相談員 ・ 介護士・介護福祉士 ② 保育士・教員・養護教諭 (1) 児童福祉制度・障害者総合支援法 (2) 相談窓口 (3) 家族会 (4) ショートステイ (5) 障がいをもつ子どもへの教育制度の保障

科目目標 5 : こどもの尊厳と権利を尊重し、看護学生として倫理的に配慮した態度をとる。

具体的目標	実習内容
1) こどもの権利を擁護するため看護学生として責任ある行動をする。	(1) こどもの看護における倫理 ・ こどもに興味・関心をもつ ・ 障がいをもつ子どもとともに楽しむ (2) 看護学生としての姿勢 ・ 学習準備とリフレクション ・ 身だしなみ ・ 報告・連絡・相談 ・ 見学態度 ・ 自己管理

評価方法	評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	母性看護学実習Ⅱ 命を育む
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院

科目のねらい
看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進していくための看護の方法を学ぶ。周産期にある対象の理解を深めるとともに、性と生殖に関わる健康問題を持つ対象の理解をし、必要な知識・技術・態度を習得する。さらに健全な母性を育むために出産後、地域で家族と共に安心して養育生活ができる支援方法学ぶ。これらの実習を通して生命の尊厳について自らの考えを深めていく。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標 1：周産期にある対象、性と生殖に関わる健康問題を持つ対象の理解をし、それに対する看護の方法を述べるができる。	
具体的目標	実習内容
1) 産科・婦人科外来の機能と構造を述べるができる。	(1)産科、婦人科外来の環境 ①安全に診察が受けられる環境 ・感染予防 ・転落防止 ②羞恥心に配慮した環境 ・カーテン、ドアの鍵 ・周囲の声
2) 産科・婦人科外来看護師の役割を述べるができる。	(2)産科・婦人科外来看護師の役割 ①緊張の緩和・羞恥心への配慮 ②受診・健診目的の明確化 ③診察の補助
3) 産科外来を受診する対象の身体的特徴、心理・社会的特徴を述べるができる。	(1)妊婦健康診査の実際 ①身体的特徴の理解 ・外来カルテ、母子健康手帳・妊婦健康診査のデータ等からの情報収集 ②心理・社会的特徴の理解 ・妊娠経過に伴う不安や葛藤、受容 ・生まれてくる子の親になることへの準備 ・社会的・経済的背景 ・妊婦と家族および地域社会 (2)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント ①正常な経過との比較 ②今後起こりうる状態の予測 妊娠経過が分娩・産褥・新生児に及ぼす影響 ③必要と考えられる保健指導
	(1)ライフサイクルの段階と影響 (2)健康問題の種類と内容 (3)特殊な治療・検査 (4)自覚症状 (5)受診のきっかけ (6)心理・社会的特徴の理解 ①身体的変化に伴う不安や葛藤、受容 ②社会的役割と影響経済的状況や予測されること (7)家族の思い・不安

科目目標4：地域で生活する母および家族とそのこどもの環境、子育てに関するストレス要因を理解することができる。

具体的目標	実習内容
1) 地域で生活する母親および家族とこどもの環境を述べるができる 2) 母親および家族のストレス要因を述べ、良好な親子関係を促すための援助をすることができる。	(1) 母親および家族とこどもの子育て支援の環境 ①生活環境 ②人的環境 ③地理的環境 (2) 利用者同士の関わり (3) 利用者との関わり (1) 母親および家族からの相談内容 (2) 子育てに関する不安、おそれ、悩み、ストレス ①母親および家族の表情 ②母親および家族の言動 ③母親および家族とこどもの関係性 (3) こどもの成長発達段階とそれに対する母親および家族の興味関心 (4) 良好な親子関係・家族関係を促す援助

科目目標5：健全な母性を育む保健・福祉、多職種との連携について理解することができる。

具体的目標	実習内容
1) 母子を取り巻く地域保健・福祉の制度や社会資源について述べるができる。 2) 多職種との連携、看護の役割・援助について述べるができる。	(1) 子育て支援センターに関連した保健・福祉制度 (2) 母子に関連した社会資源 (3) 利用者との関わり (1) 多職種との連携 保育士と子育て支援員 (2) 他施設との連携 ①子育て支援センターと保健所 ②子育て支援センターと児童相談所 (3) 職員の役割・援助 (4) 利用者との関わり

評価方法	評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 3学年 通年
科目名	精神看護学実習 その人らしさを支える
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

科目のねらい
<p>精神の疾患・障がいにより日常生活に支障をきたした対象に対して、精神看護学の知識と技術を用い、基礎的な精神看護の実践を学ぶ。 また対象との関わりから、看護者の感情・思考・言動が対象に及ぼす影響について知り、患者-看護師関係の展開の中で自己理解を深め、対人関係の学びを今後の看護実践へつなげていく。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。</p>

科目目標と学習内容	
科目目標1：精神の健康障害をもつ対象の全体像を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象が安全・安心して過ごすための治療環境を述べる。	(1) 病院・病棟の構造・機能 ①閉鎖・開放病棟の構造の特徴と役割 ②デイルームの機能および目的 ③隔離室（保護室）の機能 ④トイレや浴室の使用法 (2) 事故対策と安全管理の特殊性 ①施設の目的の理解 ・鍵の取り扱いと施設の意味と責任 ・ドアの開閉時の注意点 ②日用品・私物（金銭・菓子等）危険物の管理 ③緊急時の避難経路
2) 対象に必要な基本的データを述べる。	(1) 基本的データ ① 年齢・性別・入院形態 ② 診断名・社会資源 (2) これまでの歩み 既往歴 生育歴・生活歴・性格 家族構成・家族歴 初発年齢 現病歴・入院から受け持つまでの経過 症状・治療内容・治療の影響 今後の予測・治療上の制限
3) 対象の健康障害や入院に対する思いを述べる。	(1) 健康障害や生活に対する対象の思い ① 入院生活への思い ② セルフケアの状況 ③ 病識・病感の有無 ④ 家族への配慮 ⑤ 入院前後での生活の比較 ⑥ 社会的役割達成の思い (2) 現在の状態 ①精神状態の情報収集 外観・意識・注意、知覚、記憶、 見当識、気分・感情、思考、知能、 意思・欲動・行動、遂行機能、 自我意識
4) 対象の普遍的セルフケア要件を述べる	(1) 普遍的セルフケア要件の情報収集 空気・水・食物（薬）の十分な摂取 排泄過程と排泄物に関するケア 個人衛生の維持 活動と休息のバランスの維持 孤独と人付き合いのバランスの維持 安全を保つ能力

科目目標2：精神の健康障害が対象の日常生活へ及ぼす影響を知り、もてる力を活かして援助する。	
具体的目標	実習内容
1) 対象の症状が普遍的セルフケア要件のセルフケアレベルに及ぼす影響がわかる。 2) 具体的な看護計画を立案・実施する。	1) セルフケア上の問題の明確化 (1) オレム-アンダーウッド理論に基づき、普遍的セルフケア要件に沿ってアセスメントを行う。 ・空気・水・食物（薬）の十分な摂取 ・排泄過程と排泄物に関するケア ・個人衛生の維持 ・活動と休息のバランスの維持 ・孤独と人付き合いのバランスの維持 ・安全を保つ能力 (2) 看護目標 (3) 看護計画 (4) 看護援助の実際 ①援助の説明と同意 ②患者の病状やペースへの配慮 ③患者のもてる力への尊重 ④評価・修正
科目目標3：対象への看護援助やかかわりを通して、自己の感情や行動の傾向から自己理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 患者—看護師関係を築くための行動がとれる。 2) 対象と自己のかかわりの場面から相互の影響を考える。 3) 自己を振り返り対人関係の特徴を述べる。	(1) 関係をもち始める時期 自己紹介、実習目的や期間・内容についての説明 (2) 関係をもち続けていく期間 行動を共にし、具体的な課題を共有、 両者の相互理解、看護援助の提供 (3) 関係の終結に向かう時期 治療的別れ、この出会いで相互に学んだことを伝え合う。 1) 看護場面の設定 ①プロセスレコードにこの場面を選んだ理由 ②対象の言語・様子 ③思ったこと・感じたこと ④学生の言動・様子 ⑤積極的傾聴 ・関心を寄せる ・言動を歪みなく捉える ・対象の立場になった考え方 (1) 全体の評価 場面設定の明確化 コミュニケーションの特徴 対象に対する思いの変化
科目目標4：精神の健康障害をもつ人が社会で暮らす為に利用できる支援について理解することができる。	
具体的目標	実習内容
1) 精神科医療における社会資源を述べる。 2) 精神保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を述べる。	(1) 社会復帰に向けたかかわりの実際を知る ① デイケア、就労支援施設 ・利用している社会資源 ・疾患とのつきあい方 ・日常生活習慣、過ごし方 ・家庭、職場、地域での役割活動 ・余暇活動、一日の楽しみ方 ・家族との関わり ・地域・友人との関わり ・生活環境 (1) 精神保健医療福祉チームメンバーの構成と役割の把握 (2) 多職種連携の実際の見学 (3) 看護師の役割の理解

評価方法	評価基準に基づき、臨地実習指導者と教員で協議し、提出された実習記録を確認の上で決定する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 3学年 後期
科目名	統合実践実習
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	2単位(90時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 医療安全 医学書院

科目のねらい
各看護学領域で学んだ知識・技術・態度を統合する。また医療チームの一員であることを認識し、チームの中で、組織の中で働くことの意味を考えながら、日々継続される看護活動の実際を学ぶ。多職種と連携し、協働することの意味を考えながら、臨床判断ができる総合的な看護実践能力を培うことをねらう。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標1：看護職者の業務の実際を通して、看護サービスのマネジメントを学ぶ。	
具体的目標	実習内容
1) 看護マネジメントの実際を述べる。	(1) 病院組織における看護マネジメント ① 病院理念, 看護部理念・目標 ② 看護部門の組織構造 ③ 看護部門の組織 ④ 職員教育 ⑤ 組織連携(会議、委員会)
2) 看護単位(病棟)におけるマネジメントプロセス、病棟管理者の役割を述べる。	(1) 病棟における看護マネジメント ① 病棟目標、方針 ② 看護ケア提供システム(看護方式) ③ 病床管理 ④ 看護必要度 ⑤ 安全管理 ⑥ 物品管理(薬物管理含む) ⑦ 他部門との連絡調整 ⑧ 看護部門としての報告・連絡・調整 ⑨ 職員のタイムマネジメント ⑩ 職員の健康管理 ⑪ 職員のキャリア形成、職員教育
3) 看護チームの構成とチームリーダー、チームメンバー、看護助手の役割を述べる。	(1) チームの一員としての役割とマネジメント ① チームリーダーの業務の見学 ・チーム内の看護業務管理・医師への報告・連絡・相談 ・病棟管理者への報告・連絡・相談 ・多職種との調整 ② チームメンバーの業務の見学 ・日常業務 ・チームリーダー・チームメンバーへの報告・連絡・相談 談・ ・夜勤者への申し送り ・入退院の手続き ・多職種との連携 ・情報共有 ③ 看護助手業務の見学 ・無資格者の業務内容と業務範囲 ・看護師の指示・依頼・指導 ・看護師への報告・連絡・相談 ・多職種との連携

科目目標2：看護チームの一員として、複数の対象に対する援助を優先順位を踏まえて実践する。	
<p>1) 複数の対象の病態・治療内容・検査結果を把握する。</p> <p>2) 複数の対象の1日のスケジュールを把握する。</p> <p>3) 対象の情報から必要な看護計画を述べるができる。</p> <p>4) 看護の優先順位を判断できる。</p> <p>5) 看護計画に基づき安全・安楽・自立を考慮した援助ができる。</p> <p>6) 実施した複数患者の援助を評価し、翌日のスケジュール修正ができる。</p>	<p>(1) 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース ・病態・治療内容・検査結果 <p>(1) 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の1日の過ごし方 ・病棟スケジュール ・予定されている治療・検査 <p>(1) 看護問題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の立案した看護問題と期待される成果の根拠を把握 <p>(1) 看護援助の優先順位の判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象に必要な援助の内容の判断 ・複数の対象の1日のスケジュールを比較 ・複数の対象に対する援助の優先順位の判断 ・対象の要望 <p>(1) 日常生活援助</p> <p>(2) 診療の補助</p> <p>(1) 複数患者の援助予定の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施した援助内容の見直し ・翌日の援助内容の検討 ・期待される成果と援助方法の設定
科目目標3：病院における医療安全の取り組みの実際を学ぶ。（医療事故・感染・災害）	
<p>1) 病院における医療安全（医療事故・感染・災害）対策について述べる。</p>	<p>(1) 病院における医療安全対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病院・病棟の医療安全対策 ② ヒヤリハット・インシデント報告の活用 <p>(2) 病院における感染対策</p> <p>(3) 病院における災害対策</p>
科目目標4：看護専門職者として、看護の質の保証、倫理的配慮・責務を考え行動する。	
<p>1) 看護師としての責任と倫理に基づいて行動する。</p>	<p>(1) 看護の質の保証</p> <p>(2) 看護倫理綱領</p>
科目目標5：看護マネジメント実習を通して自己の課題を明確にする。	
<p>1) 統合実践実習の経験から、看護師としての自己の課題を述べる。</p>	<p>(1) 実習グループメンバーとしての協同</p> <p>(2) 実習経験の振り返りから自分に身についた看護実践能力を明確にする。</p> <p>(3) 看護師としての自己課題を言語化する。</p>

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと